

科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
保健	1	A B C D E F	1	必修	35 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	
教科書	新 高等保健体育
使用教材等	・ICT(パソコン)パワーポイント ・ワークシート

科目(保健)の目標

学習目標	<p>【知識及び技能】個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付けるようにする。                  【思考力、判断力、表現力等】健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者へ伝える力を養う。                  【学びに向かう力、人間性等】生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。</p>
------	--

年間授業計画

学期	単元・単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準
1	1単元 現代社会と健康 第1章 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考え方と成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 4 健康に関する意思決定・行動選択 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復	健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方が変化してきていることについて理解する。健康は様々な湯インの影響を受けて主体と環境の相互作用のもとに成り立っていることや、健康の保持増進にはヘルスプロモーションの考え方を踏まえた意思決定・行動選択および環境づくりに関わることを学ぶ。感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられること、またその予防には個人の取り組み及び社会的な対策を行う必要があることを学ぶ。感染症のリスクを軽減し予防するには衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策と共にそれらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についてもその原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解する。	【知識・技能】健康水準の向上・疾病小僧の変化に伴い個人や集団の健康についての考え方が変化していることについて、免疫・遺伝・生活行動などの主体要因と自然・経済・文化・保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていること、健康を保持増進するためにはヘルスプロモーションの考え方にに基づき適切な意思決定・行動選択により疾病などのリスクを軽減することを含め自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに環境づくりが重要であること、がん・脳血管疾患・心疾患・高血圧症・脂質異常症・糖尿病などを適宜取り上げこれらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには適切な運動・食事・休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること・定期的な健康診断などを受診することが重要であることなどを理解している。【思考・判断・表現】健康についての考え方について健康に関わる原則や概念を元に整理したり個人及び社会生活と関連付けて自他や社会の課題を発見できる。我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータを分析し生活の質の構造に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえ整理している。健康の考え方についてグループワークで話し合った内容をノートに記述したり発表する内容を評価する。生活習慣病の予防と回復について個人及び社会と結びつけて考えることができたり、それについてグループワークを行い、ノートに説明できる。【主体的に学習に取り組む態度】健康の考え方について課題解決に向けた学習主体的に取り組もうとしている。
2	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康 14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応	健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には食事・運動・休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見・早期治療、及び社会的な対策が必要であることを理解する。喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因となること、また役部乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には人や社会環境への対策が必要であることを理解する。精神疾患の予防と回復には運動・休養・食事及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに心身の不調に気付くことが重要であること、また疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解する。精神疾患は精神機能の基盤となる心理的・生物的または社会的な機能の障害などが原因となり認知・情動・行動などの不調により精神活動が不全になった状態であることを理解しノートなどにまとめられる。早期に専門家へ相談や治療を受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見差別の対象ではないことについて理解している。	【知識・技能】健康水準の向上・疾病構造の変化に伴い個人や集団の健康についての考え方が変化してきていることを理解し発言したり記述している。健康の保持増進にはヘルスプロモーションの考え方にに基づき適切な意思決定・行動選択により疾病などのリスクを軽減することを含め自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに環境づくりが重要であることについて理解したことを発言したり記述している。感染症のリスクを軽減し予防するには衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信・予防接種の普及など社会的な対策と共にそれらを前提とした個人の取り組みがひつようであること、エイズ・性感染症についてもその原因及び予防のための個人の鼓動選択や社会の対策について理解したことを発言したり記述している。【思考・判断・表現】生活習慣病などの予防と回復について習得した知識をもとに自他の生活習慣や社会環境を分析しリスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取り組みや社会的な対策を整理できている。自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などをグループワークしたり、ノートに記述したりして説明できる。喫煙・飲酒・薬物乱用の防止について健康に関わる原則や概念をもとに整理したり個人及び社会生活と関連付けたりして自他や社会の課題を発見でき、課題解決方法とそれを選択した理由などをグループワークしたりノートに記述したりして説明できる。精神疾患の予防と回復について健康に関わる原則や概念をもとに整理したり個人及び社会生活と関連付けて自他や社会の課題を発見でき、習得した知識をもとに心身の健康を保持し不調に早く気付くために必要な取り組みや社会的な対策を整理できる。また予防や回復のために自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などをグループワークしたりノートに記述したりして説明できる。【主体的に学習に取り組む態度】生活習慣病とその予防について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。喫煙・飲酒・薬物乱用について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。精神疾患の予防とその回復について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	第2章 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成 4 応急手当の意義と救急医療体制 5 心肺蘇生法	安全な社会づくりには環境の整備とそれに伴った個人の取り組みが必要であること、また交通事故防止するには車両の特性の理解・安全な運転や歩行など適切な行動・自他の生命を尊重する態度・交通環境の整備に関わるこ	【知識・技能】安全な社会づくりには環境の整備とそれに伴った個人の取り組みが必要である。また交通事故を防止するには車両の特性の理解・安全な運転や歩行など適切な行動・自他の生命を尊重する態度・交通環境の整備が関わること、交通事故は補償をはじめとした責任が生じることを理解する。事故を防止したり事故の発生に伴う傷害などを軽減したりすることを目指す

3	6 日常的な応急手当	<p>と・交通事故は補償をはじめとした責任が生じることを理解できるようなる。安全な社会を作るために必要な個人の取り組みを理解する。応急手当の意義とその手順や方法を身に付ける必要性について理解する。日常生活で起こるケガの基本的な応急手当の方法を理解できるようになる。心肺蘇生法ができるようになる。</p>	<p>安全な社会の形成には交通安全・防災・防犯などを取り上げて法的な整備などの環境の整備・環境や状況に応じた適切な行動等の個人の取り組み及び地域の連携などが必要であることについて理解する。適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には正しい順序や方法があること、また応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから速やかに行う必要があることを理解するとともに心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けることが出来るようになる。日常でおこる傷害や熱中症などの疾病の際にはそれに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを実習を通じて理解し、応急手当が出来るようにする。【思考・判断・表現】安全な社会づくりについて安全に関わる原則や概念をもとに整理したり個人及び社会生活と関連付けたりして自他や社会の課題を発見して。またそれを発言したり記述している。応急手当について安全に関わる原則や概念をもとに整理したり個人及び社会生活と関連付けたりして自他や社の課題を発見している。【主体的に学習に取り組む態度】安全な社会づくりについて課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。応急手当について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>
---	------------	---	---

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。